

北海道遠別農業高等学校の行動計画（グローバル・アグリハイスクール宣言 Part II）

全国の農業高校の行動計画		学校において令和5年度に重点化する取組及び具体的方策			
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
I グローバル教育で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	○基礎基本の定着や教科内プロジェクトを充実させ、思考・判断・課題解決の力を伸ばす。	総合的探究の時間を充実させ一人1プロジェクトを実践し、課題解決力を伸ばすことができた。記録や振り返りに重点をおいた教科内のプロジェクトを実施することができた。	総合的探究活動を充実させるために、教科内プロジェクトのさらなる充実を実践し、自ら課題を立て実践や考察できる力を段階的に身につけていく必要がある。	4
	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	○教科内で常にグローバルな視野で現状把握し、地域の未来を予想する場面を多く設定する。	海外研修を再開し、台湾農業の視察や現地学生との交流をおして国際的視野を持つ生徒の育成につながった。	国際的視野を地域課題解決に活かし、地域と共に成長することができる生徒の育成が求められる。	4
II 地域社会・産業に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	○これから地域農業を支えていく若い農業者や農業改良普及センターと共同で地域農業について考える機会を設ける。	「ファーマーズトークinのむい」と実績発表大会を4Hクラブ、留萌振興局と意見交換することができた。	農業課題に関する意見交換にとどまらず、地域農業課題に共に取り組む仕組みや環境づくり、専門家とのさらなる連携が求められる。	5
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	○地域の名産品になるような商品開発やふるさと納税の返礼品の開発を強化する。	高品質な遠別メロンやもち米の栽培の栽培に成功し、ふるさと納税の返礼品となることで地域貢献と生徒の学習意欲向上につながった。	現在開発中の製品の品質向上と安定生産を実現しさらに販売会や、ふるさと納税の返礼品に活用する。	4
III 地球環境を守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	○農業の与える環境負荷について正しく理解させ、持続性のある栽培・飼養管理を実践する。	JAS有機やASTAGAP認証に関する学習をより生徒主体で行えるように授業展開することができた。日頃の実習や授業から農業と環境負荷について意識させ行動することができた。	生徒が主体的に農業生産と環境負荷について考え議論し、実践できる環境づくりが求められる。	4
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	○地域資源活用や地域振興にむけて総合的探究の時間を活用し主体的に取り組む環境を構築する。	総合的探究の時間で実施する。プロジェクトテーマにおいて地域資源の活用や地域発展にむけた商品開発について取り組む事で、地域振興に関する興味関心が向上し、主体的な活動につながることができた。	教科内の取り組みにとどまらず、地域と共に総合的な探究の時間を展開することで、地域振興につなげると共に、地域と共に成長する環境づくりが求められる。	5
IV 地域交流の拠点となる学校	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	○ICTを活用したスマート農業を実践し、データを集積するとともに、地域への技術還元と情報発信を活発化させる。	水田の自動水位設定装置や羊舎のウェブカメラを活用することで適切な管理体制を構築することができた。	学校がICT技術の先端となり、省力化等地域課題に積極的に取組還元していく仕組みづくりが求められる。	4
V 地域防災を推進する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	○各種災害や感染症に対して適切な対応が取れる能力を育てます。	危機管理マニュアルをベースとしながら、防災教室を開催し、生徒自身が、様々な場面で危険を予知し回避する能力向上やシステム作りのための教育を行うことができた。	生徒が地域防災について自ら考え計画し行動できる体制を構築する。	5